

令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 京都府舞鶴市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

舞鶴市乳幼児教育センター(以下、「センター」)を拠点に、「舞鶴市乳幼児教育ビジョン」(以下、「ビジョン」)に基づいて、『乳幼児教育』『発達支援』に関する事業を実施。乳幼児教育コーディネーター、発達支援教育コーディネーター、保幼小接続コーディネーター各1名、相談員2名を配置し、「情報発信」「研究」「研修」「連携」「園訪問」を通じて、家庭や地域、園校の乳幼児教育を「コーディネート」「サポート」している。研修等を通じて、公私、園校種を越えて学び合う機会となっている。

【令和5年度における主な取組内容】

- ◎センター開設5年と新たなビジョン策定を記念し、乳幼児教育フォーラムの開催
- ◎保幼小連携～学びを深める 学びをつなぐ～
 - ・1年生と5歳児の担任を対象とした保幼小連携研修(4回)
 - ・架け橋につながる連携協力園校(18校区)による5歳児と1年生の連携活動の充実

【取組内容の具体的な事例】

乳幼児教育フォーラムの開催～みんなでつながり育むこれからの乳幼児教育～

センター開設5年目を迎え、また、新たなビジョンの実現に向けて、乳幼児教育フォーラムを開催しました。

本市の乳幼児教育の方向性を示すビジョンは、平成27年度に、学識経験者や市内の保育・教育関係者、PTA、子育て支援関係者、市民の代表と園校の直接子どもに関わる保育者・教員など、多くの人に関わり策定しました。平成30年度に簡易な改訂を経て、5年の計画期間を終了することから、今年度、改訂を行いました。育てたい子ども像や基本理念等の基本的な考え方は継承しつつ、「こども基本法」や「幼児期のこどもの育ちに係る基本的なビジョン(はじめの100か月の育ちビジョン)」等を反映させ、基本方針の見直しや文言等の整理を行いました。策定時と同様、ビジョンをみんなのものにするために多くの人に携わっていただけるよう、園校の保育者・教員をメンバーとしたワーキンググループを設置し、内容等の検討を行いました。この他にも、学識経験者からの助言を受けたり、子ども・若者支援会議や教育委員会議等においても意見の聴取をしたりして、幅広く意見を聴き、改訂を行いました。



乳幼児教育フォーラムでは、新たなビジョンについて紹介し、神戸大学大学院北野幸子教授による基調講演においてこれからの乳幼児教育について学び、シンポジウムでは、市長、教育長、教育委員、ワーキンググループから4名(保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校)の代表者が登壇し、それぞれの立場から、舞鶴の子どもをどのよう

に育てていくのか、ビジョンへの期待などを語り合いました。市内の保育・教育関係者をはじめ、子育て中の保護者や地域の方、市外からも参加があり、周知を図ることができました。この他にも、事業報告として、公開保育を実施した私立認定こども園と公立保育所が、保育を見直し変化してきた経過や講師から学んだことについて報告しました。保幼小連携に関する取組は、学校教育課指導主事より、学びを深める、学びをつなぐ連携活動の実践や、主体的・対話的深い学びを意識した生活科等の授業づくりなど、研修の中で学んできたことについて報告を行いました。

保幼小連携研修～学びを深める 学びをつなぐ保幼小連携～

今年度の保幼小連携の研修では、架け橋期における子どもの姿や学びを保育者も教員も互いに理解し、「学びを深める 学びをつなぐ」連携活動を目指して4回の研修に取り組んできました。

第1回目には、1年生の担任と教務主任を対象に、園での学びをいかす環境や時間、援助の方法等について伝え、スタートカリキュラムの

第2回 保育参観～舞鶴こども園～〈5月19日〉

【4・5歳児の学びの姿】

～思い思いに楽しみながら考える・試す・工夫する～

雨上がりの園庭にできた大きな水たまりに、子ども達は大喜び。思い思いに穴を掘ったり水を流したり、山を作ってトンネルを掘ったり、水たまりをつなげたり・・・友達と一緒に遊ぶ姿が見られました。4歳児の部屋では、ごっこ遊びから作りだしたものを、また遊ぶ姿が見られました。



水たまりが大きくなっていくよ、もっともっと水を流して大ききよ

〇〇ちゃん、反対からトンネルをほって！もうよほど、つながりそう

「～のよつこたい」「～したらどうなる」という一人一人の思いをもとに、繰り返し試すというプロセスを大事にする
それが 思考力の芽生えにつながる



教員車がとびまあす

こわれちゃったじょうぶにしなくちゃ！

帽子を作ろう

下アも作ろう



土をつんできたよ

友だちと課題解決したい 協働的な学びへ

ここを掘れるよつこたいから土もって入れて

小さい虫のこと 知りたい

どうしたら調べられるのかなあ

幼児クラスでは、それぞれに遊んだ後に、気付いたことなどを話すお話しタイムがあります。5歳児のクラスでは、この日、小さい虫を見つけて図鑑で調べたけれど見つからなかった子が、その虫を一人一人に見せた後、保育者の助けを借りながら「小さくて、どげが2本で、とぶ虫」と特徴を伝えました。「どうしたら、調べられるのかなあ」という保育者の言葉に、聞いていたクラスの子は、その子と一緒に考えて考えます。「iPadで調べたらいい」「むらさきっぽい色で」「むらさき色で調べたらいい」「どげがあるから、ハチの仲間かも知れん」と、それぞれ考えを出し合います。「家で調べてみる」という子も現れました。「家で聞いてわかったことがあったら教えてね」と励みられました。一人の子どもの疑問を自分のこととして捉え、皆がこれまでの経験や知恵から調べる方法を一生懸命に考える姿が見られました。一緒に考えて考えるよい時間でした。このように、すぐに解決できなくても、結論がなくても大丈夫という安心感の中で、わからなかったことを皆にたずねてみよう、考えたことをうまく言えなくても話してみようという思いが育っていきます。

の改善を図りました。第2回目には、5歳児担任と1年生の担任を対象に4、5歳児の保育を参観して「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」の理解を深めたり、架け橋期の教育・保育について学んだり、学びが深まる、学びがつながる連携活動を目指して連携活動における期待する子どもの姿の共有を図ったりしました。第3回目には、保育者が1年生の算数科を授業参観し、「乳幼児教育と小学校教育で共通すること」「学びのつながりで感じたこと」について交流しました。第4回目には、5歳児担任と1年生の担任を対象に、保幼小接続コーディネーター等が訪問した園校の連携活動について実践報告を行い、それぞれ

第3回 公開授業～与保呂小学校～〈10月17日〉

【1年生の学びの姿】

1年生の算数科「たし算」で、初めての繰り上がりのあるたし算の学習の1時間目でした。これまでの学びをいかす問題づくりをする導入から始まり、式を立てた後に、自分で答えを求めます。その自分の考えた解決方法をペアやグループで、数図ブロックや図を使い、言葉で伝え合いました。そして、全体で考えを聞き合い、多様な考えを知ったり、共通点から「10をつくればいい」と考えをまとめたりました。子ども達は、自分の課題として学習に取り組む、最後まで集中する姿が見られました。

グループワークでは、「幼児教育と小学校教育で共通すること」「学びのつながりで感じたこと」を交流し、各グループから次のようなキーワードが出されました。
○わくわくする導入をする
○子どもの気持ちを引き出す肯定的な言葉がけをする
○子どもに共感する
○子ども同士の言葉での伝え合いを心がける
○主体的に取り組むことを大事にする
保幼小でカリキュラムの特性に違いはありますが、育みたい資質・能力や基本的な考え方は一貫していることを確認することができました。



「乳幼児教育の質の向上研修ニュースレター第6号より」

の実践の交流も行いました。

その成果もあり、実践内容は単なる交流から、5歳児と1年生が多様な関わりを通じて自己発揮し、考えたり、工夫したり、協力し合ったりする内容へと変わりつつあります。

令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 大阪府大阪市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

「就学前施設と小学校が互いの教育の理解を深め合い、連携・接続の一層の充実を図ること」「子どもの学びを豊かにし、教育の質の向上を図ること」を目的として、就学前教育と小学校教育の「連携・接続」の進め方とあり方を研究している。

また、センターに幼児教育アドバイザーを配置し、保幼小連携・接続研究等のサポート、就学前教育カリキュラムの研修等の実施やアドバイザー研修受講の集約等を行うことで市内就学前施設における幼児教育アドバイザー育成を推進している。

【令和5年度における主な取組内容】

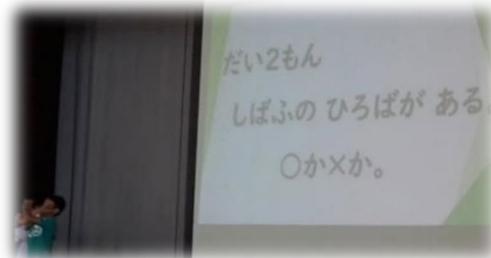
- ・保幼小連携・接続推進事業第3期として、令和4年度・5年度の2か年、小学校と近隣就学前施設の3～4施設で構成された3つのブロックで就学前教育と小学校教育の「連携・接続」の進め方とあり方を研究し、報告会を実施。
- ・大学教授等の有識者を講師として招聘し、センター主催の研修会を年4回開催。

【取組内容の具体的な事例】

<5年生と5歳児との交流>

入学した1年生が一番身近に接することの多い5年生（次年度6年生）との交流を深めることで、小学校生活への期待を高めることができるように、小学校の講堂で5年生と幼稚園、保育園の5歳児との交流会を行った。

交流会では、5年生が主体となって進行役となり、グループで自己紹介をした後、「王様じゃんけん」やパワーポイントを用いた「小学校〇×クイズ」「じゃんけん列車」の3つのゲームを楽しんだ。



<交流中の様子>

5年生は、5歳児と話をする際にしゃがんだり、姿勢を低くしたりして、自然と目線を合わせて話をしていました。また、なかなか話せない子どもには、「一緒に言おうか？」などとサポートする姿も見られた。

5歳児は最初、緊張した様子も見られたが、5年生が教えてくれたり、褒めてくれたりしたことで緊張もほぐれ、時間とともに笑顔が見られるようになり、楽しく活動ができた。

<交流後の様子>

5年生は、「楽しかったと言われて頑張った甲斐があった」「小さい子は苦手だったが、お世話をすることつを学べた」等、様々な感想を述べ、来年、自分たちが一番上に立

って下級生をリードするという自覚をもった様子だった。

5歳児は、園に帰ってからも、「じゃんけん列車がまたしたい」「5年生は大きかったけど優しかった」と話しており、早く小学生になりたいという気持ちが高まった様子だった。

教職員同士での振り返りでは、「地域で縦につながるものが、とても少なくなっている実態から、この活動がよい効果を生むと実感した」「子どもたちの笑顔が印象的で、このような活動が子どもの心を育てるには大切なことだと強く感じた」などの意見が聞かれ、「連携・接続」の重要性を実感した。今後も年間計画を立てて継続していく。

令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」

主な取組内容概要

自治体名： 大阪府堺市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

令和2年に幼児教育センターを設置。「堺市幼児教育基本方針」を改定し、公立園の研究実践機能を強化することを明示しつつ、民間園との連携にも重点をおいている。民間施設が85%を占める中、市内の幼児教育の質向上に向けて、幼児教育センターの取組を充実させるとともに、令和3年度より市立幼稚園（研究実践園）において、公開保育を実施し、民間園とともに研究を進める仕組みを構築。

【令和5年度における主な取組内容】

- すべての幼児教育施設を対象とした「幼児教育研修会」や、ミドルリーダー育成のための「幼児教育実践交流セミナー」の実施
- 配慮を要する幼児に対する支援について、大学教員や臨床心理士等の専門家による巡回相談の実施
- 市全体の幼児教育の質向上を図るための仕組づくりとして、公立幼稚園の研究実践機能の強化および専門家派遣
- 幼児教育アドバイザー等を幼児教育施設に派遣する「園内研修支援事業」
- 幼小接続に係る事業等として「幼保小合同研修」「ワクワクひろば事業」の実施、就学支援情報「わくわくスタート堺っ子」のホームページ掲載

【取組内容の具体的な事例】

<幼保小合同研修会の様子>

年間3回の合同研修会を実施。第1回では、幼保小の架け橋プログラムについて、担当指導主事より情報提供を行うとともに、幼小接続のモデル事例となる取組を発信。第2回では、実践報告として、架け橋期の教育にあたる5歳児の取組やスタートカリキュラムの事例紹介等を行い、事例を通じたグループワークを実施した。第3回では、幼児教育から小学校教育への円滑な接続をテーマに専門家による講演を行った。今年度、全ての回において近隣の施設や小学校で、校区ごとにグループを固定し、情報交換が出来る場を設定したことが、地域の体制づくりにつながっている。



<幼児教育実践交流セミナーの様子>

園内研修を活用し、保育が楽しくなるセミナーとして年間3回程度実施している。施設間交流を中心に理論学習と往還させた実践型のセミナーとし、令和4年度から2年間で公民6施設において、ちょこっと公開保育や園内研修を公開し、交流を図った。施設どうしの横のつながりをつくるとともに、各施設のミドルリーダー等の育成を図っている。



<園内研修支援事業の様子>

各施設のニーズに応じた多様なメニューを用意し、校園長等の経験のある幼児教育アドバイザーや指導主事等を希望する園に派遣。講義式の一方的な園内研修ではなく、グループワーク等を通して、自分たちの考えを可視化していくことで自園の園内研修の成果としての実感につながっている。また、研修担当者への助言等も行っている。

令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 大阪府豊中市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

公立・民間共通の保育環境評価ツールとして『豊中市教育保育環境ガイドライン』を平成31年（2019）に策定。この『ガイドライン』に基づいた研修を毎年実施。第2回の公開保育は、公立園、民間園、小規模施設など複数園で実施。大阪府幼児教育アドバイザー認定者が中心となってグループワークを行い、互いに学びを深めている。幼保こ小の各教職員が共に学び合う夏期研修会を毎年実施。現場の課題に応じたテーマを設け、交流やディスカッションを行なっている

【令和5年度における主な取組内容】

- ・『豊中市教育保育環境ガイドライン』研修（第1回～第3回）を実施。
- ・幼保こ小連絡協議会を年2回、校区連絡会を年2回、幼保こ小夏期研修会（合同研修）を年1回実施。
- ・幼児教育サポートセンターにおいて、幼児教育サポーター（アドバイザー）による園の巡回指導、及び園からの依頼によるアドバイザー派遣を実施。

【取組内容の具体的な事例】

＜幼保こ小夏期研修会の様子＞

第1～6分科会に分かれて交流・ディスカッションを行った。写真は第3分科会の様子。

幼児教育サポーター（アドバイザー）がコーディネーターとなり、

「幼児期から児童期へ・AI時代に必要な力」

～絵本で育む非認知能力と国語科の力～

をテーマに小学校職員、就学前施設職員が学び合った。



令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 大阪府八尾市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本センターで実施している幼児教育研修については、公立私立や施設類型にかかわらず、市内全ての就学前施設に案内をしている。また、本センターと共に、現場のニーズを反映できるよう、公立こども園の主幹保育教諭（幼児教育アドバイザー等）が、幼児教育研修の企画・運営も担っている。

公立こども園の幼児教育アドバイザーによる、他園の採用3年目保育教諭園内研修への指導助言を実施し、様々な学年での指導助言の経験を積み重ねている。

【令和5年度における主な取組内容】

- ・ 幼児教育研修の開催
- ・ 園内研修等への講師派遣（園内研究会、事例研究会、園内学習会、保育力アッププロジェクトなど）
- ・ 幼児教育研究（保育公開、研究討議、研究報告会、研究冊子の作成など）
- ・ 特別支援教育・保育巡回指導
- ・ 『様々な遊びの中で健やかに育つ子ども』の実践フォト&事例の募集

【取組内容の具体的な事例】

＜幼保こ小合同研修会の様子＞

年間、全4回の研修を企画している。第2回は、就学前施設の職員が小学校の授業を見学、小学校教員が就学前施設の保育を見学を行った。小学校では、国語、算数、図工、体育の授業を見学し、子どもたちの様子や授業の進め方や工夫などを知った。また、就学前施設では、朝の会、プール遊び、製作活動などの見学を行った。保育者のかかわり方や視覚支援などの環境構成も参考になり、子どもの意欲を大事にしていることを改めて確認できた。第3回では、中学校区の13班に分かれ、スタートカリキュラム【体育：水遊び編】を作成した。「水に慣れるために水のかけあっこや洗濯機という遊びをしているが、小学校でも同じように遊び、水に慣れることを目的としていると知り、幼保こ小のつながりが感じられた」「就学前は楽しむことを大切に、小学校では楽しむことも大事だが、授業として子どもたちが学習できるようにする大切さの違いがわかり、だからこそ子どもたちが接続していく時に戸惑わないように、このような場で一緒に考える必要性や大切さを感じた」との意見が出た。参加者の「もっと互いを知りたい、つながりたい」という思いが強くなった。このように幼保こ小が交流するきっかけとなる研修を引き続き企画していきたい。

＜『様々な遊びの中で健やかに育つ子ども』の実践フォト&事例＞

令和3年度から、公立こども園のみで始めたが、今年度からは、私立園にも募集をし

た。1園だが、私立園からの応募もあった。写真部門では、ほっこりとする写真や、楽しさが伝わってくる写真もあった。保育環境アイデア部門や教材開発部門では、「こんな教材をこんな風を使うことができるんだ!」「子どもの思いに寄り添った環境だな」など、保育実践ですぐに活かせるようなものも多くあった。応募作品には、コメントを記入して返すことで、保育者のモチベーションアップにもつなげている。今年度より、応募作品をホームページにも掲載して、より広く周知する。

<市長部局との連携>

教育委員会事務局の教育センター（幼児教育グループ）と市長部局の幼児教育担当課（3課）のメンバーで毎月会議を実施し、研究や新任研・3年目研の内容の共有、こども園に関すること、市の施策などについて話し合い、幼児教育の発展・推進を図る機会としている。特に今年度は、『就学前教育・保育の充実のために』ということで、課題を出し合い、できることを考え実現に向けて話し合った。本センターとしては、『教育センター所報』に乳幼児期の遊びがどのような学びの芽生えにつながっていくかを『そだちのねっこ』として掲載した。0～5歳児のエピソードを通して幼児教育の奥深さ・楽しさを発信し、小学校以降の育ちや学びにつながっていくこともねらっている。『教育センター所報』は、各小中学校へ配付とともにホームページにも掲載している。

<https://www.city.yao.osaka.jp/0000068465.html>

令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：大阪府箕面市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

- 公立・私立、施設種別の垣根を越え、市内全ての就学前施設をつなぎ、ともにを高め合うためのコーディネーターの役割を担う組織として「保育・幼児教育センター（以下、「センター」と言う。）」を設置している。
- センターでは、市内全ての就学前施設を対象とした巡回訪問や研修会を通して、保育・幼児教育全体の質の向上を目指している。さらに、配慮を必要とする子どもへの支援の充実、小学校教育との円滑な接続等のテーマにも取り組んでいる。

【令和5年度における主な取組内容】

- ①巡回訪問（市臨床心理士と幼児教育サポーター（本市における「幼児教育アドバイザー」の呼称。以下同じ。）が市内就学前施設を訪問）
- ②市内就学前施設の職員を対象とした保育・幼児教育等に係る研修会の企画・実施
 - ・対面、オンライン、オンデマンド配信等、内容に応じて多様な研修形態を提供
 - ・幼保小の接続に係る研究・討議
 - ・研修受講証明書の発行開始
- ③支援保育・教育研究部会の開催
- ④就学前保育・教育カリキュラム（以下「就学前カリキュラム」という。）の策定

【取組内容の具体的な事例】

＜巡回訪問の様子（市臨床心理士同行）＞

- ・ 専門的な知識や豊富な実務経験を持つ「幼児教育サポーター」と臨床心理士が市内就学前施設を訪問し、保育・幼児教育に関する相談等に対して、ともに考え、解決に向けたサポートを行った。
- ・ 巡回訪問のタイミングのみならず、研修や資料の情報提供など訪問の機会を設け、顔の見える関係の構築ができた。



＜保健衛生に関する研修の実施＞

- ・ 市立病院職員を講師に招いて保育現場における感染対策についての研修をオンデマンド配信で実施した。

＜幼保小の接続に係る研究・討議の様子＞

- ・ 民間園の職員、公立園所の職員及び小学校教職員で幼保小の接続に係る研究・討議を行った。
- ・ 学識経験者の助言のもと、学校園所の見学後に子どもの姿を通して意見交換を行ったほか、架け橋期カリキュラム等の内容について検討を行った。



＜就学前カリキュラムの策定＞

- ・ 民間園の職員と公立園所の職員が協働し、「就学前カリキュラム（案）」を作成し、市内就学前施設へ配布。各就学前施設から意見を募り、「就学前保育・教育カリキュラム」を策定した。

<支援保育・教育研究部会の様子>

- ・公開保育やグループワーク等を通して活発な意見交換を行い、支援を必要とする子どもへの理解と合理的配慮、個別の指導計画の作成等について学ぶことができた。



令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」 主な取組内容概要

自治体名： 兵庫県伊丹市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

令和4年度作成の「伊丹市保育環境構成のてびき」を、80余りの市内就学前施設へのアドバイザー訪問及び令和5年度幼児教育研修会における連続講座で使用するなど様々に活用し、本市全体における幼児教育の質の向上に取り組んだ。また、本市における人材育成の課題を踏まえ、新任保育者向けのガイド「伊丹市新任保育者のてびき『保育のあゆみ』」を作成した。

【令和5年度における主な取組内容】

- ・ 幼児教育アドバイザーによる就学前施設訪問事業
- ・ 「伊丹市保育環境構成のてびき」を活用した連続講座等、研修会の充実
- ・ 新任保育者向けガイド作成、若手保育者自主勉強会の開催等、人材育成支援
- ・ 各種研修会、幼児教育シンポジウムの企画、開催
- ・ 学校指導課と連携した担当者会や研修の開催等、幼小接続の推進

【取組内容の具体的な事例】

<「伊丹市保育環境構成のてびき」を活用した連続講座の様子>

「保育の質」を可視化した「伊丹市保育環境構成のてびき」をテキストに実施。中堅職員対象で同じメンバーが3回連続で参加し、公私・保幼こ混合のグループを組み、保育実践の写真などもちより、対話を通して学び合った。受講者がその学びを各施設へ持ち帰り、園全体の保育環境のアップデートにつなげた。



<若手保育者自主勉強会の様子>

保育者同士の繋がりと、ともに学ぶコミュニティを目指し「自主勉強会」を立ち上げた。公私立、種別問わず、5年目までの金曜夜間に実施。毎回20名前後の参加がある。中堅職員からも開催希望があり、保育者が学び、つながる場の必要性を再認識した。



<幼小接続研修会の様子>

幼児教育センターと学校指導課共催で幼小接続研修会を2回開催。保育者と小学校教員が校区ごとに「めざす子ども像」を共有し、それを踏まえた接続の取り組みを具体的に考えた。後日まとめたものを各学校区で活用できるよう、全小学校及び幼児教育施設に配布した。



令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 兵庫県西脇市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

29年度、教育委員会管轄に幼保連携課を新設するとともに、市内全ての就学前教育・保育施設の保育の充実を図るため幼児教育センターを設置した。公立幼稚園閉園に伴い令和5年度より、市内の幼児教育施設は、私立幼保連携型認定こども園（8園）のみとなった（無認可保育施設を除く）。幼児教育センターは、新規を含め4名の幼児教育アドバイザーが在籍し、各園のニーズに応じた現場訪問を行うとともに、全ての園の保育・教育の質の向上に向け研修を計画実施したり、質の向上推進委員の先生方による第三者評価等を行ったりしている。

【令和5年度における主な取組内容】

- (1) 幼児教育アドバイザーによる現場巡回訪問（保育内容）の実施
- (2) 質の向上推進委員による指導・助言（視察訪問）
- (3) 幼保交流研修・公開保育の実施（教育・保育内容、園小架け橋、特別支援教育等）
- (4) 幼児期の教育と小学校教育の接続を推進
（接続カリキュラム調査研究委員会・園小相互訪問・合同研修会 等）
- (5) 特別支援教育と保健・福祉事業との共通理解
（幼児教育センター・学校教育課主催の特別支援学校支援部コーディネーターによる巡回相談、福祉部局主催の臨床心理士による巡回相談に同行、センター主催の特別支援研修会開催）

【取組内容の具体的な事例】

(1)＜現場巡回訪問の様子＞

現場巡回訪問では、園管理職や保育者と関係が構築できているアドバイザーと原則2人体制で訪問した。各園の特色やこれまでの保育の方法を尊重しながら相談に応じ、信頼関係を育むことを大切に進めていった。参観や面談、指導案作成等、園の希望に応じながら行った。 訪問回数：49回



(2)＜質の向上推進委員による指導・助言（視察訪問）の様子＞

各園、各保育者が行う、市内共通カリキュラムに基づいた園評価・自己評価を基に委員の先生方が各園を訪問し（年2回）、的確な助言をいただいている。委員の先生方の



助言や認めにより、保育者は保育の見通しをもつことができたり、意欲が膨らんだり、自信につながったりする先生方の姿が多く見られた。

また今年度は保育内容以外の評価項目についても、委員の先生方からの助言を報告書に詳細に記したことで、各園の特色や課題を明確化し、次年度への取組の方策を具体的に考えることができた。

(3) <幼保交流研修・公開保育の様子>



園からのニーズに応じ、幼保交流研修を「幼児教育担当者・乳児保育担当者・主幹副主幹教諭・全職員」と対象別に計画実施した。担当年齢や立場に応じて、学びたい内容や課題も異なるため、「明日から即使える内容」として実りのある研修を実施することができた。

年2回、同じ園が公開保育を行った。参観者の刺激となったり、講師の先生から具体的に認められることで、保育者の意欲が増し、自分たちで保育をより高めていこうとする姿勢が見られるようになった。



また若手の先生方の保育力や発信力が高まり、自身の保育を振り返ったり、人に語ったり、ドキュメンテーションを作ったりする力も身に付いてきた。



(4) <園小接続における3つの取組の様子>

① 交流訪問

小学校入学後、5月末から6月中頃までに、各こども園の職員が進学先の小学校へ児童の参観に行った。また小学校の職員においては、夏休み期間中に1人1回、西脇市内のこども園に参観に行くことができた。互いの保育・教育内容を実際に知ることから、学びの理解や、育ちをつなぐための手立てを考えることができるのではないかと、ということ改めて感じる事ができた。

② 接続カリキュラム調査研究委員会（年4回）

今年度の研究委員は、①就学前教育担当校長・園長（2名） ②校区代表小学校教諭（4名） ③各こども園保育教諭（8名）に加え、学識者として兵庫教育



大学准教授鈴木正敏氏をアドバイザーとして構成。就学前部会と小学校部会も行い、グループ協議を中心に、西脇市の接続カリキュラム（アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム）の検討、策定を行った。また10の姿を踏まえた各園での具体的な取組内容を記した接続シートも作成し、各園から小学校へつなぐ際の具体的なツールとなるようにした。

③ 園小合同研修会

園小合同の架け橋研修を年4回実施した。小学校で実際に使用している教科書を用い、園の活動が小学校のどの教科、学びにつながっているかを考察したり、「資質・能力」で園と小の学びをつないでいくことの重要性を共通理解したりすることができた。



(5) <保健・福祉部局との連携の様子>



特別支援学習会では、北播磨こども発達支援センター事務組合わかあゆ園理学療法士・言語聴覚療法士、管内特別支援教育コーディネーター、臨床心理士・公認心理士等を講師に迎え、学校園職員と市職員が共に発達支援等について学ぶことで、共通理解を図ることができた。

また、福祉部局が所管する臨床心理士が行う各園の巡回訪問に同行し、切れ目のない支援が行えるよう関係者間の情報交換を行い、共通理解を図ることができた。

令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 奈良県奈良市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本市では、中堅層の保育者の不足や若手職員の増加、園の小規模化・短学級の増加により教育・保育の共有や技術の継承が困難な課題があったため、教育・保育に関する指導的役割の中核を担う現役副園長を対象とした「幼児教育アドバイザー育成プログラム」を開発した。幼児教育アドバイザーの主体的な学びと循環的な学びを構築する「育成しつつ活用する」人材育成体制の構築を推進し、その深化と充実を目指し取組んでいる。

【令和5年度における主な取組内容】

【人材育成の循環を目指した研修体制の充実】

- ・「奈良市保育教育士育成指標」を活用したステージ別研修の実施
- ・幼児教育アドバイザーの育成と活用

【「社会に開かれた教育課程」の実現を目指した教育・保育の発信】

- ・「奈良市保育教育士育成指標」の更新
- ・乳幼時期の教育・保育の重要性を発信する「でいあシート」の活用

【取組内容の具体的な事例】

＜「奈良市保育教育士育成指標」を活用したステージ別研修の様子＞

幼児教育アドバイザーが「奈良市保育教育士育成指標」を活用し、受講者が身につけるべき資質・能力を考慮しながら、アクティブステージ研修（経験年数4～10年）・ミドルステージ研修（経験年数11年～）の企画・運営を行った。両ステージ共に、往還的研修を取り入れ、アンケート内容を活かすことで、受講者は身に付けたい資質・能力に応じた研修を受講することができ、研修の学びが自園での実践につながるものとなった。また、幼児教育アドバイザー自身も、各ステージに応じた研修を企画・運営する資質・能力の向上となった。



＜「奈良市保育教育士育成指標」の更新＞

これまでの事業で作成した「奈良保育教育士育成指標」について、各園での活用状況を検証した。現在の職員の姿と、指標における各ステージにおいて求められる資質・能力を照らし合わせながら分析をすると共に、より活用しやすいものとなるよう内容の検討や文言の見直しを行った。中でもミドルステージにおいては、経験年数11年目以降と対象の幅が広いことから、段階的に資質能力の向上が出来るよう更新を行った。

<教育・保育実践の発信 ～「でいあシート」の活用～>



昨年の事業において、乳幼児期の子どもが遊びを通して学んでいる姿や乳幼児期の教育・保育の重要性の理解推進を目的に、家庭・地域・小学校への教育・保育実践の発信方法として作成した「でいあシート」については、令和5年度、公立園全園で作成・研修を行い事例研修で子ども理解や保護者への理解促進を進めた。また、地域行事での掲示、学級懇談会で提示し話し合う場を設けるなど、幼児教育アドバイザーの園を中心に各園で幅広い教育・保育の発信を行った。

<実践検討会における育成した幼児教育アドバイザーの資質向上と活用の様子>

市内ほぼ全ての園に、園長や副園長としてこれまでに育成した幼児教育アドバイザーが配置されている。今年度より実践検討会に各園の副園長も参加し、共に学び資質向上につなげる機会となるようにした。不安や悩みを出し合ったり、新たな協議方法を検討したりすることで、今後の実践につながる学びとなった。

また協議を録音し、文字に起こすことで、幼児教育アドバイザーが語る視点について検証を行った。「発達段階について」「保育者の援助について」「環境構成について」主にはこれらの3点について語られていることが明確となり、アドバイザー自身の振り返りとしても有効なものであることが分かった。今後、この分析が各園における実践の参考となるよう、引き続き分析を続けていく。



<こ保幼小合同研修の様子>



「こ保幼小のより良い接続を目指して」というテーマで学識経験者スーパーバイザーによる講演を開催した。小学校教員にも参加を呼びかけ、でいあシートから幼児期の育ちや学びについて受講者でグループ協議も行った。互いの実践や現状について情報共有する場になったと共に、今後の連携の在り方について学ぶ場となった。

令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 岡山県玉野市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

教育委員会が域内すべての就学前教育園を管轄し、教育委員会内に就学前教育センターを設置し、就学前教育職員を指導する就学前教育アドバイザー2名を配置

- ・幼稚園（公立5園、私立なし）
- ・保育所（公立4園、私立3園）※私立3園はすべて同じ法人が運営。
- ・認定こども園（公立5園、私立なし）※すべて保育所型の認定こども園。

【令和5年度における主な取組内容】

- ①公私立幼保全17園への園訪問を実施（事前訪問、事後フォローアップを含む。）
- ②若手職員（新採用～3年目の職員）への園内研修や巡回訪問指導の実施
- ③多種多様な研修会（参集及びオンライン）の開催
- ④園小連携の取組の推進
- ⑤県及び県内自治体への情報発信及び情報共有
- ⑥県内外の先進地視察（幼・保・こ園・小学校等）

【取組内容の具体的な事例】

上記①：公私立幼保全17園への園訪問を実施

<右上段の写真：園訪問の様子>

訪問指導を受けることを通じ、全園職員の意識改革や、他園職員も参加することで、保育のレベルアップが図られている。



上記②：多種多様な研修会の開催

＜右中段の写真：研修の様子＞

参加者人数を調整し、さらに開催場所も広い部屋を確保し、3密を避けて研修を実施した。講師との意見交換が充実し、理解を深めることができた。



上記③：園小連携の取組の推進 関連

＜右下段の写真：園小連携、学校訪問の様子＞

小学校区単位（小学校教諭（1年生担任）とそのエリアに所在する園職員（年長担任））で相互に訪問を実施し、カリキュラムの打合せ・協議を行った。直接担当者同士で協議するため、具体的な部分での調整ができた。



令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」 主な取組内容概要

自治体名： 岡山県高梁市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

令和4年度教育委員会へ組織を一元化し、就学前教育から高等教育までの一貫教育の推進体制を整えている。幼保こ共通の『高梁市就学前教育保育課程』の研究指定園を2年間指定し、教育・保育の質向上のため研究会の推進を図っている。過疎化による学校園の統廃合が進む中、園小接続の問題や園児数減少に伴う教育・保育の課題解決に向けて、平成28年度から現在まで、就学前教育アドバイザーを2名配置し、就学前教育の質向上に取り組んでいる。

【令和5年度における主な取組内容】

- 1 園への計画訪問、要請訪問の実施
- 2 研修会の計画・実施
- 3 市指定研究会の推進
- 4 園小接続の取組
- 5 保育業務支援システムの活用支援
- 6 特別支援教育の推進
- 7 県・市町村の連携及び市内全体の体制づくり

【取組内容の具体的な事例】

【事例1 就学前教育保育課程研究発表会の開催】

令和5年10月20日、令和4・5年度研究指定した有漢こども園が『心動かし主体的に遊ぶ子どもの育成～様々なドキュメンテーションを生かして～』を研究テーマに取組んだ2年間の研究実践の成果を発表し、市内全域の教育・保育の質向上の取組につながる機会とした。研究実践にあたり、岡山県幼児教育センターの古舘美穂子就学前教育スーパーバイザー、本市就学前教育アドバイザーによる指導助言により取組を支援した。



<有漢こども園 公開保育の様子>



<有漢生涯学習センターでの研究発表会の様子>

【事例2 小中学校教員の教育・保育体験の実施】

高梁市内小中学校新規採用教員を対象に、市内こども園で教育・保育体験を実施し、就学前の教育・保育の考え方や、子どもの発達、学びの姿を知ってもらう機会とした。実習後、研究協議と実習報告を行い、情報共有を図るとともに、就学前指導係から高梁市の一貫教育と園小接続についての説明を行い、幼児教育についての理解を深めた。



<令和5年8月4日 川上こども園での教育・保育体験の様子>

【事例3 高梁市インクルーシブ教育フォーラムの開催】

令和4・5年度、岡山県就学前からの特別支援教育拠点化推進事業の指定を受け、拠点園に高梁幼稚園を指定し、園内支援体制、相談支援体制、研修支援体制の充実に向けて取り組んだ。高梁幼稚園の研究成果と連携園の高梁保育園及びことばの教室（通級指導教室）の取組を、市内園、小学校、市関係部署、療育機関職員等と情報共有を行い、市内の特別支援教育についての専門性の向上を図った。



<ポスターセッションの様子>



<指導講評・まとめの様子>

令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：岡山県美作市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

就学前施設については、施設類型を問わず教育委員会の管轄であり、相互に人事交流を行っている。研修や会議等すべて合同で行っている。美作市幼児教育目標「きらきら笑顔夢中になって遊ぶ子ども」を掲げ、質の高い幼児教育を目指している。また、幼児教育アドバイザーを平成28年から配置し（元幼児教育担当指導主事・小学校校長）、適切な指導を通して市の幼児教育の質の向上や幼小接続が着実に進んでいる。

【令和5年度における主な取組内容】

1 継続した幼小接続の取組から「架け橋プログラム」へ

今までの幼小接続の積み上げを活かし接続の質を改善することにより、「架け橋プログラム」へつなぎたいと考えた。大原小学校区を市の研究指定にした（指定1年目）。

2 保育の質の向上

本市独自の初任研をH28年から実施している。保健福祉部局と連携した研修や現代的課題に即した研修を企画し、初任者の資質向上を目指した。

【取組内容の具体的な事例】

【令和5年度における主な取組内容】

1 継続した幼小接続の取組から「架け橋プログラム」へ

接続の質を改善するには、幼小相互の共感的理解が欠かせない。そのために本市では子どもの交流だけでなく教職員の合同研修、5歳児担任の小1の授業参観、小学校教員（1年担任は悉皆）・美作市小中学校新規採用教員の就学前施設での保育体験研修を継続している。また、小学校区ごとにスタートカリキュラムを合同作成し、子どもが安心して自己発揮しながら生き生きと学校生活がスタートできるように工夫もしている。

<幼小連携・接続授業公開研修会>

令和5年6月6日実施（指定校）

5歳児担任が1年生の授業参観。既習の言語活動で楽しく自己表現しながらスタート。子ども主体でスムーズに展開され教師は伴走している。温かい学級集団の中で一人一人の子どもが楽しく学び合っている授業を参観した。



研修では学校長の話や接続担当者の（「架け橋プログラム～よりよい接続を目指して～」）実践発表や協議を通して滑らかな接続から「架け橋」への理解を深めた。参加者からは、「子どもが自己選択し主体的に活動する場面が多々見られ、幼小連携の積み重ねの成果を感じた。」「成果が授業に表れていて、子どもの力を引き出す教師の援助が大切だと感じた」等、幼児教育の質向上の重要性とそれを受け取る小学校側

の意識改革の重要性を再確認した。

＜小中学校新規採用教員保育体験研修の様子＞令和5年8月9日実施

研修では、幼児教育アドバイザーが幼児教育や連携・接続についてパワーポイントによりプレゼンテーションした。保育体験（遊び・振り返り）後、Yチャートを使用しどんな力が育っているか「10の姿」を基に協議したり、今後の授業や学級経営に活かせることについて振り返ったりした。参加者からは、「環境づくりは子どもに何をさせたいかどんな力をつけたいかを考えてすることが大切なこと」



「子どもが自ら考えたくなる仕掛けを授業に組み込む大切さ」等、個別最適な学びと協働的な学びのヒントを幼児教育の中に見い出すことができた。このような地道な取組を継続することが共感的相互理解の推進となり、幼小の円滑な接続や小中の接続にも発展するものとする。

＜保育体験を接続に活かす＞ 8月1日（保育体験）～指定校校内研修で報告

指定校では、保育体験で得た教員の学びを接続担当者が校内研修でプレゼンし全職員で共有することにより共通理解を図っている。教師の指示がなくて

も、子どもだけで整列できる。水遊びの後の着替えは後始末まで確実にできる。隙間時間は子どもが主体的に進める。「あのねタイム」で友達の話聞き合う。遊びの中で「不思議や疑問」をたくさん発見し興味を持ってみんなで調べる。わくわくしながら学んでいる等。子どもは遊びの中で体験しながら学んでいることや、保育教諭が子どもを信頼して任せ伴走者として関わっていることを具体的に報告している。このように幼児教育を全職員で理解することにより保育体験を滑らかな接続に活かしている。「自ら選んだ遊び」から1日がスタートするスタートカリキュラムは、幼児教育の積み上げを活かした幼児教育から学んだ実践となった。



2 保育の質の向上

2 保育の質の向上

＜保育の質の向上 市独自の初任者研修の様子～＞

令和5年5月18日・6月8日・令和6年3月13日園外研修実施

新採用保育士等を対象とした研修は、施設類型を問わず年6回（園外3、園内3）実施している。

園外研修では、幼児教育アドバイザーによる「美作市の幼児教育について」のプレゼン、人材育成指標の説明、保健福祉部局と連携した特別支援教育に係る「個別の支援計画や支援シート」の作成についての心理士の講話等を行っている。また、公開保育（全学年公開）を参観することにより保育の実践力を高める機会も設けている。また、保育技術向上のための読み聞かせ講座やわらべ歌等の伝承遊び講座も実施した。



令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 広島県広島市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本市では、教育委員会と市長事務局（こども未来局）が連携・協力して広島市乳幼児教育保育支援センターを運営しており、31人の乳幼児教育保育アドバイザーを配置し、関係団体等と連携しながら、幼児教育・保育の一体的な質の向上に向けて取り組んでいる。

【令和5年度における主な取組内容】

- 1 乳幼児教育保育アドバイザーの育成・派遣
- 2 乳幼児教育保育の質の向上に関する懇談会、人材育成のための意見交換会の開催
- 3 本市内の公立・私立の幼稚園・保育園・認定こども園等の職員を対象とした各種研修会の実施
- 4 公立の幼稚園・保育園が連携した公開実践（公開保育）の実施
- 5 市立幼稚園における実践研究及びその成果の普及・就学前の子どもを持つ保護者に対する子育て支援
- 6 広島県乳幼児教育支援センターとの連携 等

【取組内容の具体的な事例】

＜各区における幼保小接続に関する研修会＞

各小学校区における幼保小連携を促進するため、行政区ごとに公立・私立の幼稚園・保育園・認定こども園、市立小学校等の職員を対象とした研修会を開催し、計152人が参加した（令和5年度は、全8区中3区を対象として開催）。講義とグループワークを通して、参加者が小学校教育との円滑な接続に必要な視点や考えを共有した。

講 話：「子どもの探求から考える保幼小接続：保育者と小学校教師の対話を通して」

講 師：中坪 史典 氏

広島大学大学院人間社会科学研究科 教授

広島大学大学院人間社会科学研究科附属幼年教育研究施設 施設長

【市立小学校及び近隣の幼稚園・保育園・認定こども園の職員によるグループワーク】



＜乳幼児教育保育の質の向上に関する懇談会の開催＞

幼児教育・保育の質の向上に向けた取組を推進するに当たり、専門的な見地から幅広く意見を聴取するため、学識経験者、教育関係者、関係団体代表者で構成した懇談会を開催している。

令和5年度は、外国にルーツを持つ子ども及び障害のある子どもの園の受入れから小学校への接続までに必要な対応について、懇談会において意見を聴取した上で、各園で活用可能な資料としてまとめ、公立・私立の幼稚園・保育園・認定こども園等に周知した。



【「外国にルーツを持つ子どもへの支援」(表紙)】

【受入時のチェックリスト】

＜人材育成のための意見交換会の開催＞

幼稚園教諭・保育士等に対する効果的な研修などの人材育成について、専門的な見地から幅広く意見を聴取するため、学識経験者や関係団体代表者で構成した意見交換会を開催している。

幼稚園教諭・保育士等が研修を受けやすい環境を整えるため、令和5年度は、意見交換会の議論を経て策定した「各キャリアステージにおいて幼稚園教諭・保育士等に必要となる力」を活用し、幼稚園教諭・保育士等が成長段階ごとに身に付ける資質・能力を確認しながら、各団体の実施している研修の内容のイメージを持って学べるようにするとともに、関係団体が実施する一部研修について相互参加を可能とし、関係団体及び広島市乳幼児教育保育支援センターが実施する相互参加可能な研修の一覧（幼稚園教諭・保育士等の相互参加可能な研修計画）を作成して、公立・私立の幼稚園・保育園・認定こども園等に周知した。

【各キャリアステージにおいて幼稚園教諭・保育士等に必要となる力】

令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
 主な取組内容概要

自治体名： 山口県周南市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

公立園16園・私立園27園を抱える本市において設置者・施設類型を越えて保育者の専門性向上を図るとともに、「周南市幼保こ小の架け橋プログラム」の推進により協働した幼児教育推進体制を確立することは喫緊の課題である。そこで、周南市乳幼児教育センターを令和4年度4月に設置するとともに、センター業務を関係機関相互の連携により実践的に推進するため「周南市幼保小の接続・連携による教育・保育充実のための実践的協議会」を年2回開催している。

【令和5年度における主な取組内容】

- 周南市乳幼児教育センター主催で市内全乳幼児施設対象のオンライン研修会開催
 ～年8回延べ32日参加人数666人（オンライン研修参加者前年比48%増）
- 学校教育課と共催し公開保育をもとにした協議を実施する「幼保・小連携交流会」
 ～年8回実施 参加園数延べ42園21校 参加人数延べ78人
- 3名のアドバイザー（幼児教育2・幼保小接続担当1）及び保健師(1)による訪問
 訪問実施施設数43／43園(100%) 小学校を含めた延べ訪問回数186回

【取組内容の具体的な事例】

＜幼保こ小の架け橋プログラムモデル園の取組～架け橋期のカリキュラム協議

・コミュニティ・スクールの仕組みを使って地域へ発信＞

○幼保こ小の架け橋プログラム推進のため市内公立園8園をモデル園に指定し、連携先の小学校と協働した幼保こ小の架け橋期のカリキュラム作成・交流活動充実の取組を行った。

周南市立第二保育園・周南市立今宿小学校の協議では、架け橋期のカリキュラムがツールとなって互いの教育・保育の理解が深まっていくよさも確認できた。

さらに、今宿小学校の学校運営協議会において小学校や地域と連携した幼児教育の取組をコミュニティ・スクールの仕組みを使って発信することができ他の園・小学校の参考になっている。他のモデル園でも、架け橋期のカリキュラム協議の効率的な在り方や交流活動計画・記録様式の有効活用等、実践を通じた様々な工夫が見られており、来年度に研修会やリーフレット等で成果を発信していく予定である。

「SDGsのマークに興味をもったことがきっかけとなって、いろいろな取組を行う中で、ごみの分別の当番ができました。」との回答で園の様子がよく分かりました

今宿小学校では、小学校が原案として作成された架け橋期のカリキュラムについて協議がなされました。

協議の中で、1年生担任から、「園では、どのような当番活動をされていますか？小学校に入って物足らなさを感ずることのないよう知っておきたいから」という質問が出ました。



カリキュラム協議の一場面から



学校運営協議会での取組発表

＜幼児教育サブアドバイザー育成の取組～オンラインでのお悩み相談＞

市内私立園・公立園に希望を諮り、中堅教諭5人を対象とした幼児教育サブアドバイザー研修を実施している。研修計画の1回をオンラインによる双方型の研修とし、経験の少ない保育者の悩み相談を幼児教育サブアドバイザーが担当した。その際に幼児教育アドバイザーはファシリテーター役を務め支援した。参加者からはたいへん好評で、サブアドバイザーにとっては適切な助言を深く考える貴重な機会となった。



オンラインでのお悩み相談

＜専門性を生かした園訪問・研修会開催～幼児教育アドバイザーと保健師の同行訪問＞

幼児教育アドバイザーと保健師が園に同行訪問することにより、人材育成の状況や研修ニーズ把握に加え配慮を要する子どもの状況把握を行った。必要なケースは庁内関係部署等と情報共有しながら園及び保護者支援において連携を図っている。また、配慮を要する子どもへの支援として保育者のスキルアップが図れるよう研修を実施している。



医療的ケア児に関する研修会

＜ICT研修会～ICT活用による働き方改革・保育の質向上へ＞

タブレット型パソコンが有効活用されるようICT研修会を開催。ペン入力によるドキュメンテーション作成や保育総合ソフトによる発信の仕方等のスキルアップを図った。



ICT研修会

「2時間かかっていたドキュメンテーション作成が30分でできるようになった。」「保護者への発信回数が増えた」など成果が見られるとともに、撮影した画像・動画を園児と一緒に振り返りに利用する取組も増えてきている。

＜周南市幼保こ小の架け橋プログラム合同会議の本格実施に向けて～実践的研究協議会の強力な支援＞

県内国公立大学及び市内の保育協会・幼稚園協会・小学校校長会・学校教育課等の委員で構成された「周南市幼保小の接続・連携による教育・保育充実のための実践的研究協議会」で幼保こ小の架け橋プログラム合同会議編成の在り方や運営上の留意点等について意見をいただき作成した原案を市内各園・小学校に提示し、賛同を得ることができた。



実践的研究協議会の様子

各園から小学校への入学状況が多様である課題をふまえた上で、施設類型や設置者の違いを越えて小学校校区単位を原則として園・小学校がグループを作り、市内43園と27小学校で令和6年度から合同会議の本格実施を予定している。

2(1) 合同会議運営上の留意点について

架け橋期のカリキュラム編成方針2

- 幼保こ小が協働し、共通の視点を持って教育課程や指導計画を具体化できるように、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとし、育成を目指す資質・能力を視野に入れながら策定する。
- 幼保こ小の関係者が一緒に振り返って評価し、継続的に改善・発展させていくPDCAを重視する。特に、小学校1年生の修了時期を中心に共に振り返って、架け橋期の教育目標や日々の教育活動を評価し幼保こ小それぞれの教育を充実することに努めるものとする。
- 国や県のモデル地域等の成果や課題をふまえ、効率的かつ計画的に取り組む。
- 園・学校・地域の実情をふまえ、創意工夫を生かした取組が行われるものとする。

実践的研究協議会でのスライド（一部）

令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」

主な取組内容概要

自治体名： 福岡県北九州市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本市の幼児教育推進については、教育委員会各課（学校教育課、特別支援教育課、特別支援相談センター、教育センター）が所管する事業をそれぞれ担当し、子ども家庭局が保幼小連携事業を所管する等、所管担当部局が複数あるため、連携が課題であった。

本年度は、幼児教育センターの課長、指導主事、幼児教育推進員3名を中心に、教育センター、特別支援教育課、特別支援教育相談センター（各課長が兼務）や関係機関と連携し、幼児教育の質の向上に向けて、連携の強化や窓口の一元化を進めている。

訪問等による継続的な支援の主な対象は、公立幼稚園4園、私立幼稚園71園、幼稚園型認定こども園18園（全93園）であるが、保幼小連携事業や保育士等キャリアアップ研修等を通して、保育所（園）や小学校にも、支援や情報提供を行っている。

今後の課題は、幼児教育アドバイザー13名（登録）の効果的な活用と育成である。

【令和5年度における主な取組内容】

○幼児教育推進員・幼児教育アドバイザーの訪問や講師派遣による支援・助言

- ・教育内容を深める支援
- ・人材を育成する支援
- ・特別な配慮を要する幼児への対応力を身につける支援

○保幼小連携事業に関する支援・助言（相談、訪問支援、研修会等）

○関係機関との連携を含めた域内全体の幼児教育の質向上を図るための体制づくり

○ホームページ及び「幼児教育センターだより」による情報発信

【取組内容の具体的な事例】

＜幼児教育推進員・幼児教育アドバイザーの訪問や講師派遣による支援・助言の様子＞

- ・ 幼児教育推進員が中心となり、園や学校の要請に応じて訪問や研修での支援・助言を行った。園内研修や、公立幼稚園夏季研修会、公開保育協議会講話、私立幼稚園夏季研修会等を通して、教師同士が学び合う場とした。訪問による支援（約250件）の内、再訪問の要請（約140件）も増えており、今後も支援の充実を図っていく。



幼児教育アドバイザーによる園内研修の様子

＜保幼小連携事業に対する支援・助言の様子＞

- ・ 訪問や園内研修等を通じて、保幼小交流活動を支援するとともに、好事例を市内に発信した。各小学校区における連携・交流の状況や各園のニーズに応じた伴走型の支援により、関係者の主体性を引き出しながら保幼小連携事業の推進を図った。今後は持続可能な園・校内体制づくりを一層促していく。

- ・ 「令和5年度保幼小連携研修会（オンライン）」を実施し、各小学校区における連携・接続に関する意識の醸成や取組みの改善・発展を図った。

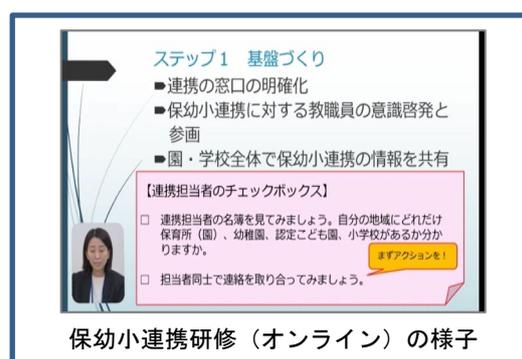
◇共催：教育委員会、子ども家庭局（幼稚園・こども園課、保育課）

◇対象：市内幼児教育施設、小学校、特別支援学校の管理職及び連携担当者

研修では、理論編として、鳴門教育大学の木下光二教授の講話により、架け橋プログラムや北九州市における保幼小連携・接続についての意義や目的を共有した。また、実践編として、指導主事より、各園（学校）のフェーズに応じた具体的な取組み方やポイントを示すとともに、市内の実践者の好事例に学び合う機会とした。

また、「スタートパッケージ」として保幼小連携の進め方とポイントや年間計画や指導案等の参考資料を示し、「保幼小共通の視点をもつことができた」「進め方のステップを基に、幼児教育施設と小学校が共通認識をもって、スムーズに進めることができた」といった肯定的な声が聞かれた。

本研修動画は、オンデマンド配信や市内教職員専用WEBサイト「KitaQ せんせいチャンネル」に掲載し、市立園・学校の教職員が必要な時に活用できるようにした。



保幼小連携研修（オンライン）の様子

<特別な配慮を必要とする幼児への対応力を身に付ける支援・関係機関との連携の様子>

- ・ 特別な配慮を必要とする幼児への対応力を身に付ける支援において、子ども家庭局（幼稚園・こども園課）、教育委員会特別支援教育課、特別支援相談センターや総合療育センター等と連携し、園からのニーズに合わせた情報共有や切れ目のない支援に向けたプラットフォームの役割を果たした。



連携のプラットフォームとしての機能の充実

<関係機関との連携を含めた域内全体の質向上を図るための体制作りの様子>

- ・ 教育委員会・私立幼稚園連盟・子ども家庭局の三者を中心とした「北九州市幼児教育連絡会議」を年2回（5月・2月）開催。北九州市立総合療育センター等の専門機関及び福岡県の幼児教育関係課等も交えて市全体の幼児教育推進に向けた情報共有、意見交換等を行い、今後の課題や方向性について共通理解をすることができた。

<情報発信の様子>

- ・ ホームページを開設し、センターの取組や研修の情報の周知を図るほか、「幼児教育センターだより」にてセンターの取組み事例や各園・校の好事例についての情報を発信した。それにより、「生命（いのち）の安全教育」に関する教材貸出依頼や後期の相談件数も増加し、情報発信の効果が見られた。

令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：長崎県大村市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本市では乳幼児教育のより一層の向上と充実を目指し、令和5年4月に「大村市幼児教育・保育支援センター」を開設し、幼児教育・保育アドバイザー3名を配置した。

「研究・研修」「園訪問」「情報発信」「連携・協働」、これらを相互に関連させながら公私施設類型を問わず、市内の幼児教育・保育施設への支援を中心に行っている。また幼保小連携・接続の推進を図るため、幼保小連携協議会を年3回開催している。

【令和5年度における主な取組内容】

- 「大村市教育・保育力向上研修会」の企画・実施及び園内研修支援（幼保小連携・接続合同研修会、公開保育含む）
- 「大村市幼保小連携連絡協議会」の開催（年3回）
- 幼児教育・保育アドバイザー、保健師、特別支援相談員による巡回訪問（特別な配慮を必要とする乳幼児の継続的な支援及び、教育・保育内容の指導助言）
- 公立幼保連携型認定こども園との協同研究
- 乳幼児期の教育及び保育に関する有益な情報の発信

【取組内容の具体的な事例】

＜大村市教育・保育力向上研修会の様子＞

公私・施設類型の区別なく、今日的な課題や現場のニーズに応じた研修会（公開保育含む）を10回開催した。

「幼保小連携・接続」についての合同研修においても本研修会に組み込み、施設長対象と職員対象の2本立てで実施し



た。公開保育においては、幼保小連携・接続の視点から、

小学校教諭にも参加を呼びけ、参観後はグループ協議や学校教育課幼保小担当指導主事の指導助言の時間を設けた。幼児教育と小学校教育を相互理解していくことの大切さを学ぶ場となった。

<園内研修支援の様子>

園の要請に応じて、園の課題に応じた園内研修実施に向けての内容検討、外部講師の紹介及び派遣、本支援センターの幼児教育アドバイザーによる講話など6園を支援した。



(教育・保育に関すること2園、特別支援教育に関すること2園、医療的ケア児に関すること2園)園からは「気になる子どもの対応に苦慮しながらも、一人一人を理解しそ

の子に応じた関わりや、具体的に褒める言葉かけをできる範囲から実践している姿が見られる」との声が聞かれるなど、全職員が園の課題解決に向けての手立てを共有するよい機会となった。

<幼保小連携連絡協議会の様子>

私立保育所、公立保育所、私立幼稚園、私立認定こども園、小学校、学校教育課幼保小担当指導主事、こども政策課係長、本支援センター長・幼保小担当者10名からなる



委員で構成された協議会を年3回開催した。近隣の保育園、幼稚園、こども園、小学校を参観後「幼児期の終わりまで

に育ってほしい姿」(以下「10の姿」)を手掛かりに協議を行ったり、それぞれの施設での交流活動(職員同士含む)を報告し合ったりなど、学びのつながりについて考え合うことができた。

<巡回訪問の様子>

巡回スタッフ（幼児教育アドバイザー、保健師、特別支援相談員）が園からの要請を受けて20園を訪問した。特別に配慮が必要な乳幼児に対する支援方法や、教育・保育内容に関することなど、施設職員に対して各専門的な視点から助言及び関係機関への紹介等を行った。また、訪問後のフォローを行い、園が抱える困り感や課題等を共有し、集



団研修や園内研修につなげたり、各関係機関と連携・協働を図ったりなど切れ目のない継続的な支援を行っている。

<公立こども園との共同研究の様子>

「保育の質の向上につながる記録のあり方」を研究テーマに掲げ、公立こども園と共同で研究を進めた。研究を実践するにあたり記録の目的を再確認することから始め、記録の視点や様式を探ってきた。保育のエピソードをSOAPの視点を用いて記述したものを職員同士で読み合わせ、それぞれの考えを出し合った。また、ドキュメンテーションを用いて、保護者や地域へ子どもの遊びを通した学びの姿を「10の姿」と併せて発信した。研究を通して子どもの育ちや学びのプロセスに、より一層目を向けようとする意識が高まり、幼児理解が深まった。研究の成果について

資料を作成し、市内施設に周知した。



令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」

主な取組内容概要

自治体名： 沖縄県石垣市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

市内10校区の幼児教育施設と小学校の職員が一緒になって、児童・幼児の姿を中心に対話を通して幼児期の学びと育ちを小学校へつないでいく。研修会や交流会の支援、巡回訪問等、幼保小接続の推進を図ることで、切れ目のない教育を目指し幼児教育及び小学校教育の充実に努める。

【令和5年度における主な取組内容】

①1年生スタート期の授業参観(4月)②1年生授業参観及び振り返り(5・6月)
③公開保育及び振り返り(8月)④保幼小連携講演会(8月)⑤市内5歳児在籍の幼児教育施設(41園)への巡回訪問(6月・9月)⑥保幼小管理職対象研修会(12月)
⑦小学校教諭による保育者体験(1・2月)⑧幼児教育連携体制推進協議会(年3回)⑨石垣市幼児教育振興アクションプログラムⅣ発行⑩リーフレット「いしがきっこみんなでチャレンジ1年生」「石垣市保育者育成指標」等配布

【取組内容の具体的な事例】

<10校区における小学校1年生授業参観及び振り返り(意見交換)>

・校区の幼児教育施設、小学校、行政の職員が参加。入学後の児童の実態を参観し、幼小の職員が同じ視点を持って協議することで、今後のアプローチ・スタートカリキュラムの作成や見直しに生かすことが出来た。また、子どもの姿を中心に語り合うことで、双方の教育の違いについて理解することができた。



<10校区内における公開保育及び振り返り>

・校区内の幼児教育施設の公開保育に幼児教育施設、小学校、行政の職員が参加し振り返り協議を行った。環境を通じた教育や遊びの中の学び等、育てたいこども像や幼児期の終わりまでに育てほしい姿を視点に協議することで、幼児期から小学校へ切れ目のない教育へと一歩踏み出すことが出来た。



<市内5歳児全保育施設への巡回訪問>

・市内5歳児が在籍している41園から事前に提出された内容を基に、要領・指針に沿った視点で保育参観や協議を行った。また、訪問を通してお互いが顔見知りになり園での困り事や運営上の課題点などについて話し合う場をもったことで、「特別な支援を要する子の保護者対応」や「自然を生かした環境の在り方」等、園の実態に合わせて意見交換をすることができ、保育内容・実践方法の一層の充実に努めることが出来た。

<保幼小連携講演会の様子>

- ・先進的な取り組みを行っている南城市の幼児教育センター長を講師に招聘し、保幼小の職員が一同に会して「接続期の教育で求められること・幼児教育について・O E C D ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030 より・幼児教育と学校教育との接続」等、具体的な事例を基に幼小接続についての理解を深めることが出来た。
- ・参加者からは「幼児教育で取り組んでいる遊びの中から学びを小学校での授業改善に取り入れていきたいと感じた。教師自身がワクワクする授業づくりを意識していきたい。」など多くの感想が上がった。
- ・演題「保幼小の接続について」講師：南城市教育委員会教育部 参事：與儀毅氏

<保幼小管理者対象研修会の様子>

- ・公立小学校教員、校長を長年勤め、現在公私連携認定こども園の園長を講師に招聘し幼児教育と小学校教育の違いや架け橋期の発達の特徴、管理者に期待すること等についての講話を通して、幼小接続や早期支援、架け橋プログラム等への理解を深めることができた。
- ・演題「幼児施設と小学校との滑らかな接続」講師：大庭学園立石垣市認定こども園 新栄町こども園 園長 吉濱剛氏



<小学校教諭による保育士体験>

- ・アプローチ期の幼児の実態把握（「どのような事に興味や関心があるのか」「話を聞く態度は」「友達との関わりは」等）や、園の環境構成について（製作コーナー、絵本コーナー文字や数字への興味・関心を高める環境等）実際に体験することでスタートカリキュラムに生かしていくことをねらいとした。1年生担任からは「6歳児の発達段階の興味関心や集中力の高め方、切り替え方」や「活動の際は『どうしたい?』『どうしていた?』『どうしたらいいと思う?』と、自己決定の場を多く設定していきたい」等、多くの感想があり接続へ向けた取組が期待される。



<石垣市幼児教育振興アクションプログラムⅣの発行について>

- ・全3回開催した「石垣市幼児教育連携体制運営委員会」の意見を踏まえ、「幼児教育は、未来を担う人づくり」の実現を図るため、今後5年間の幼児教育の振興における基本的な考え方や施策を示し策定した。今回、「石垣市幼児教育振興アクションプログラムⅢ」におけるこれまでの取組と課題から内容の見直しを図り、教育・保育の充実を重点目標の1つに掲げて、要領・指針等の理解促進や幼児の発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育・保育の推進等、本プログラムを活用し石垣市の教育保育の質の向上を目指していく。



令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 沖縄県糸満市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本市では幼小接続アドバイザーを配置し、教育委員会（学校教育課）とこども未来部（保育こども園課）が連携しながら幼児教育施設類型を越えた研修支援（幼小接続の推進、幼児教育の質向上）を行っている。

糸満市幼児教育振興アクションプランに基づく教育・保育の質向上、幼小接続の推進に務めている。

【令和5年度における主な取組内容】

- 幼小連携支援事業（推進委員会、連絡協議会、校区交流会・合同研修会等）
- 接続アドバイザー等による巡回訪問
- 教育・保育の質向上のための園内研修支援
- 保育実践及び研究を推進する研究園の指定
- 保育者育成指標の周知・活用

【取組内容の具体的な事例】

＜幼小連絡協議会の様子＞

幼小連絡協議会を年5回開催し、施設類型を越えて共に学びを深めている。また、各校区での授業参観及び保育参観を実施し、具体的な子どもの姿を捉え参観後の協議会で、互いの教育について理解を深め接続期の実践、見直しに繋げている。



＜巡回訪問の様子＞

幼小接続アドバイザーと幼児教育担当が各校区の授業参観、保育参観、交流会、合同研修会、協議会等を巡回し、関係性の構築と校区の成果や課題等の実態把握に努めている。



＜園内研修支援の様子＞

園の研修テーマに基づいた自主的・計画的な研修を支える派遣要請訪問を行い、保育参観や園内研修を通し現状と課題について幼小接続アドバイザー等が指導や助言を行っている。



＜研究指定園取組報告の様子＞

市指定の研究園へ研究を委託し、要領や指針の趣旨を踏まえた研究・研修の機会を確保するとともに、市内の幼児教育施設等へ公開保育や報告会を通して成果や課題を発信し、共有することで幼児教育の質向上を図っている。また、園内研修に大学講師を招聘し、幼小接続アドバイザーや幼児教育担当も同行しテーマに添った研修を深めている。



＜「糸満市保育者育成指標」周知・活用の様子＞

沖縄県教育委員会義務教育課の依頼で、県主催「市町村幼児教育担当者連絡協議会」にて「糸満市の保育者育成指標と保育者向け研修計画の取組」の実践発表を両課で行った。現在、県教育庁義務教育課ポータルサイトに同資料を掲載している。（「糸満市保育者育成指標」と活用方法について」DVD データ、約 20 分動画）



令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 沖縄県豊見城市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本市の教育・保育施設は、約72施設（認可外・小規模・事業所内含む）あり、大半が私立の幼稚園・認定こども園・保育所（園）である。それぞれの施設が特色のある多様な保育実践を展開しているが、保育の質に関する認識について課題も見られる。そのため、幼児教育アドバイザーを保育こども園課内に配置し、市内の教育・保育施設の園訪問を実施しながら市内すべての幼児教育の充実と質の向上を図っている。令和5年4月には、本市の幼児教育の拠点としての豊見城市幼児教育センターを設置し、市内全体の質の向上を図るための体制づくりを行った。

【令和5年度における主な取組内容】

- ・スタカリ期小学校訪問（4月）、小学校授業参観及び情報交換会の実施（6月）
- ・幼児教育アドバイザー等による園訪問の実施（7月～11月）
- ・合同研修会の実施（4月・6月・8月・2月）
- ・幼児教育センターの設置（持続可能な組織体制づくり）
- ・学校教育課との連携会議の実施
- ・新1年生保護者向けリーフレットの作成・配布

【取組内容の具体的な事例】

＜スタカリ期小学校訪問の様子＞

新1年生が安心して学校生活を送れるよう学校全体でサポート体制を築いたり、絵や文字で生活の流れを視覚的に伝えたりし、児童の自立を支えていた。また、多目的スペースに幼児期で親しんできた遊びコーナーを設置し、児童がわくわくするような環境や、友達と関わりを広げていけるような環境構成の工夫も見られた。授業においても、体を動かした楽しい授業の展開やグループで学習課題に取り組む姿もあり、児童の発達の特徴を生かした授業の工夫が見られた。



＜園訪問の様子＞

今年度は、認可外保育施設も園訪問の対象に加え（15施設中8施設訪問）、認可園、認可外保育施設を合わせて37施設の訪問を行う。意見交換会では、園の良さを伝えたり、子どもの姿を語り合ったりし、子どもの遊びの中での育ちや学びについて共有を行うことができた。また、実施後は、



園の良さや子どもの姿を写真と文章にして伝え、遊びを通した学びやその学びがどのように小学校教育へつながっているのか等について共通理解を図った。

<合同研修会の様子>

乳幼児期の保育・教育の基本（要領・指針に基づいた保育実践）や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の正しい理解、小学校教育とのつながりについて理解が深まった。



<合同研修会ワークショップの様子>

ワークショップでは、幼児教育施設と小学校の職員が保育場面（写真）から子どもの学びを見取り、保育者の援助や環境構成等について意見を出し合うことで、互いの価値観や教育観の違いに気づくきっかけとなった。



<学校教育課との連携会議の様子>

学校教育課と研修会開催に向けて協議を行うことで、事業の方向性や研修内容をより深く検証することができた。また、保幼小連携の取組を強化していくことや、組織体制をさらに推進していくことについて意見交換を行い、令和6年度以降の取組の充実へつなげることができた。



<新1年生保護者向けリーフレット検討会の様子>

新1年生と保護者が安心して入学できるよう、市内小学校校長とスタートカリキュラムの捉え方について意見交換を行った。リーフレット作成・配布まで関係者と合意形成を図ったことで連携・協働した取組となった。また、小学校入学までに育てておきたい力や、家庭との連携等についても共通理解を図ることができた。



令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要（質の向上）

自治体名：沖縄県南城市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

- 指針・要領に基づいた保育の推進⇒福祉部局と連携し、施設類型を問わず市内全保育施設の保育支援訪問を実施し、子どもの姿から語り合い保育の在り方を考える。
- 南城市公私連携幼保連携型認定こども園・公立こども園・幼稚園の5園研修会の実施及び報告会の実施⇒4地区のモデル園を目指す。（大里・玉城・佐敷・知念地区）

【令和5年度における主な取組内容】

- 全保育施設の保育支援訪問を通して要領・指針を踏まえた保育の実施状況把握
- 希望する園へ園内研修支援の実施（子ども主体・遊びこみ・ドキュメンテーション等）
- 各地区のモデル園（幼保小接続結節点）を目指し5園研修会の実施（質向上を目指す）
- 研修会の実施（園長・主任・保育者向け等）

【取組内容の具体的な事例】

※【令和5年度における主な取組内容】

＜市内全園保育施設保育支援訪問の様子＞

- ・保育参観：60分 振り返り：45分
- ・参観視点：要領・指針に基づいた保育の展開（子ども主体・遊び込み等）
- ・子ども主体・遊び込みへと保育者の意識が変わってきた。行事の在り方を改善する園が見られるようになってきた。
- ・指針・要領を手元に置くようになった。



＜園内研修支援の様子＞

- ・各園の学びたい内容に応える。
- 例、「園内研修の進め方」「子どもの主体性を尊重する保育とは」「遊びこむための環境構成を援助のあり方」等
- ・保育改善に前向きな園が徐々に増えてきた。



＜5園研修報告会の様子＞

各地区の結節点（公立こども園・公私連携こども園・幼稚園）の質向上を目指す。園内研修報告会を実施し、講師の指導助言を仰ぐ。5園統一テーマ「幼児が遊びこむための環境構成と援助のあり方」サブテーマは各園が設け報告会を実施。

- ・こども園や保育園で遊びこむことで10の姿は自ずと育まれてくることが実践発表から分かった。ワクワクする保育実践や保育者の援助の工夫、環境構成が参考になったとの声が聞かれた。5園以外の園も参加することで保育改善への意識の輪が広がった。

令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
 主な取組内容概要（幼小連携）

自治体名：沖縄県南城市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

各小学校区での研修を重視し、9小学校を中心に校区の幼児教育施設と、小学校の職員が子どもの姿を中心に対話を通して、幼児期の学びや育ちを小学校へつなぐようにする。各校区では小学校長・就学前施設長の参加を必須とし、校種の保育・教育の理解を深め学び合う研修会にする。更に中学校との連携の推進に努め幼小中へ切れ目のない教育を目指す。幼児教育の質の向上で小学校へ滑らかに接続できると考え、幼児教育の充実に努める。

【令和5年度における主な取組内容】

- (1) 「スタートカリキュラム」の実践紹介 4月4日（火）小学校1年生担任
- (2) 小学校1年生（スタート期）の授業参観及び振り返り（意見交換）
- (3) 公開授業及び合同研修会「玉城小学校」5月18日（木） ↓リーフレット
- (4) 公開保育及び合同研修会
- (5) 南城市幼児教育シンポジウム9月17日
- (6) リーフレット「南城市令和6年度版」
- (7) 保育ドキュメンテーション研修会
 ・令和6年1月30日（火）・31日（水）



【取組内容の具体的な事例】

＜小学校1年生授業参観及び振り返り（意見交換）の様子＞

小学校1年生の授業参観及び振り返り(意見交換) 全小学校。校区の幼児教育施設、小学校、行政が参加。幼児期の学びや育ちがうまく引き継がれているかを、子どもの姿を中心に語り合うことができた。子どもの姿を中心に語り合うことができ、双方の教育の違いを理解することができた。



＜公開保育及び合同研修会の様子＞

4幼児教育施設。4ブロックに分かれ実施。参加者は校区の幼児教育施設・小学校・中学校教職員、行政が参加。小学校・中学校が参加しやすいように夏休みに実施する。保育者主導から子ども主体の保育へ、遊びこむための保育の展開を考えるきっかけとなった。中学校職員も本事業に参加を促し、幼児教育から小学校・中学校教育へと切れ目のない教育へ踏み出すことができた。



＜シンポジウムの様子＞本音で語ろう幼小接続

- ・ウエルビーイングにいかにつなげるか
- ・子ども達は今幸せか！未来は幸せか！
- ・保育の質を高めよう。共主体の保育を目指そう
- ・講話「探究でつなぐ保育・教育」

琉球大学教育学部講師 宮城利佳子氏



＜保育ドキュメンテーション研修会＞令和6年1月30日・31日（展示会）南城市役所大会議室

・幼児教育施設（29園）が保育ドキュメンテーションを一堂に展示する。他園の実践から学びを深める。保育ドキュメンテーション作成を通して、幼児理解や育ちを読み取り今後の保育の展開などの効果をあげている。保育の改善、質の向上につながっている。

令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：沖縄県金武町

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

金武町では、公立、私立を問わず、町内のどの保育園、こども園、幼稚園に入園しても、小学校入学までに一定の幼児教育水準となることを目指して、0才から15才までを見通した子どもたちの「発達」や「学び」を支援するため、「学びの基礎力育成支援事業」を平成26年から行っている。幼児期で培った力を小学校・中学校へとつないで行けるよう、幼児教育の充実や体験・交流活動を通して「円滑な接続」を図っている。

研修の機会の充実、情報の共有等を勧め、保育の質の向上につながっていくこと、幼児教育の事業を組織的に企画・運営し、持続可能な事業として継続できるよう令和5年度4月より幼児教育センターを設立し、幼児教育主事を配置した。

【令和5年度における主な取組内容】

- 幼小中接続アドバイザーや幼児教育主事、県幼児教育アドバイザーによる研修支援の実施。年3回の公開保育・保育研修会、年齢別研修会（0才児～5才児）、園長研修会、幼小交流、小中交流、5才児同士の交流（スポーツ交流）、小6アプローチ交流
- 幼児教育センター運営会議の開催。（年4回）保幼小連携検討会の開催。（年3回）会議や検討会にて幼小のスムーズな接続と連携方法の検討。金武町架け橋プログラム・スタートカリキュラムの検討・整備。
- 金武町の幼児教育事業・幼小交流事業の積極的な発信。5才児保護者向けのリーフレット（できるといいなこんなこと）の検討と配付。

【取組内容の具体的な事例】

＜県幼児教育アドバイザーや東京大学名誉教授を講師に町内園の公開保育・保育研修会（3回）を実施＞

○公開保育・保育研修会では、参観の視点「環境構成について」を年テーマに協議を重ねた。公開保育参観後にグループ協議を行い、

協議後に講師からの指導助言をもらい、環境の大切さを考えることができた。特に夏の2回目となる公開保育・保育研修会・講演会は、東京大学名誉教授の汐見稔幸氏を招聘し、午後講演会を行った。午前の公開保育・保育研修会は、保幼小中の職員が一同に介し、協議を行うことができた。



＜年齢別研修会（0才児～5才児担任）の様子＞

○他市町村の園長や元園長を招聘し、各年齢に応じた保育の講話や演習を行った。今後の保育実践への意欲の向上に繋がった。



＜園長研修会の様子＞

○県の幼児教育アドバイザーを講師に、園経営と人材育成についての講話を行った。

園の強みや弱みをどのように生かすべきかを学び、今後の園経営への意欲を高めることができた。また、町として幼児教育の足並みを揃えるためのきっかけとなった。



＜カリキュラムの検討＞

○幼小のスムーズな接続と二年間を見通した金武町架け橋プログラムの作成するため、幼児教育センター運営会議を4回、検討会を3回行った。



○安心して見通しを持って令和5年度を迎えられるよう、スタートカリキュラムの見直しや追加作成を行った。また、5才児全園・3つの小学校へ「金武町幼児教育プログラム」と題し、接続に関する内容ものを一つにまとめて冊子として配布した。



＜幼児教育事業・幼小交流事業の通信。5才児保護者向けのリーフレットの配付＞

○幼小中接続アドバイザーによる保幼小連携便りを発行し、各園・各小中学校、役場等、町の幼児児童生徒の保護者や関係各所へ広く周知するために配付。また、小学校1年の学年便りと5才児園の園便りのお便り交換も実施。

○小学校入学までに幼児期で取り組む目標を周知するため、5才児保護者へ配付している。内容も5才児担任と小1担任で検討している。



令和5年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：沖縄県伊江村

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

- ・保幼連携（教育委員会・福祉課）の更なる充実に向けて相互理解に努め、本事業を中核に連携を図る。
- ・園長、主任、校長、1年生担任との情報交換を取り持つ必要がある。
- ・個別に支援が必要な幼児に対して専門的な助言を頂くため、専門家と連携強化が必要

【令和5年度における主な取組内容】

- ・年7回の事業（連携推進協議会3回・合同研修会4回）
- ・村連携アドバイザーによる各園訪問（2幼稚園・2保育所）、指導助言

【取組内容の具体的な事例】

＜伊江村保幼小中連携体制推進協議会の様子＞

- ・「15の島建ち」を意識した連携体制をより強固なものとするために保幼小中の連携、幼児教育の充実に向けた課題等を協議するとともに、保育士・教諭の資質向上に資する研修等を計画



＜第1回保幼小中連携研修会の様子＞

- ・琉球大学教職大学院教授の丹野清彦氏を講師に招き「保幼小中連携の重要性～島建ちに向けて我々ができること」をテーマに講演会を実施



寄り添う保育・教育の日々の実践経験の積み重ねを課題とする

＜EQ絵本講師による読み聞かせの様子＞

- ・當銘多美恵氏、山川千恵氏を招聘し、「いつでもどこでも楽しめる絵本のすばらしさを子どもにも大人にも伝えよう」をテーマに絵本の読み聞かせを実施
絵本の楽しさを子ども、保育士、教諭が知る機会となった



＜第3回保幼小中連携体制推進協議会の様子＞

- ・年間計画実施成果、課題報告及び講演会
振り返りアンケート報告を行った。

授業や保育に活かせる振り返りの充実が課題と感じた

